

～特集 世界のASOを目指して～ 世界文化遺産を目指す阿蘇 (第2回)

7月号では、世界文化遺産とは何か、どのようなものがあるのかを紹介しました。

「阿蘇」が世界文化遺産登録を目指すためには、国・県・関係市町村の努力はもちろんですが、そこに実際に住まれている住民の皆さんの協力も不可欠です。

そこで、今回は「阿蘇」が世界文化遺産を目指すに至った理由とその見通しなど、住民の皆さんに知っていただきたいことについて紹介します。

世界文化遺産登録を目指す「阿蘇」のこれまでの歩み

- ①2003年度、環境省・林野庁による「世界自然遺産候補地に関する検討会」において候補地国内19カ所に阿蘇山が選ばれる（世界最大級のカルデラとして評価）。しかし、人の手によって環境が改変（農地・宅地開発などで）されてきたことで、**自然遺産としての要件では登録が困難**であるとの判断になる。だが、同時に文化遺産という面から見たら「人の手が入ることで維持されてきた自然」ということが逆に評価点になるのではないかという専門家からの意見が出たことから、「阿蘇」は**文化遺産として世界遺産登録を目指す**ことになった。
- ②2007年に文化庁が世界文化遺産暫定リストへの追加候補を公募したことに伴い、熊本県と阿蘇郡市7市町村が文化庁へ提案書「阿蘇－火山との共生とその文化的景観－」を提出。
- ③2008年の文化庁による国内暫定リストに追加記載すべき資産選定の結果、リストへの追加はならなかったが、次点では最も評価が高い「カテゴリーI a」に位置づけられる。
- ④2009年、熊本県と阿蘇郡市7市町村による「阿蘇世界文化遺産登録推進協議会」を設置。
- ⑤2013年、米塚および草千里ヶ浜が「国名勝及び国天然記念物」に指定される。
- ⑥2017年、阿蘇郡市7市町村の草原が「阿蘇の文化的景観」として重要文化的景観に選定される。2021年には阿蘇市の草原を追加選定。
- ⑦2020年に熊本県と阿蘇郡市7市町村が文化庁へ提案書（2回目）「阿蘇カルデラ－巨大なカルデラ火山を極限まで利用した文化的景観－」を提出。



「国名勝及び国天然記念物」の草千里ヶ浜（写真上、大字中松）と米塚（写真下、阿蘇市）



野焼きの様子、カルデラ火山と人との共生が世界文化遺産登録の要

世界文化遺産の登録基準と「阿蘇」

世界文化遺産に登録されるためには、以下の6つの登録基準のどれか1つ以上に合致する必要があります。

- (1) 人間の創造的才能を表す傑作である。
(例：姫路城、厳島神社)
- (2) 建築、科学技術、記念碑、都市計画、景観設計の発展に重要な影響を与えた、ある期間にわたる価値観の交流又はある文化圏内での価値観の交流を示すものである。
(例：石見銀山遺跡とその文化的景観)
- (3) ある文化的伝統又は文明の存在を伝承する物証として無二の存在(少なくとも希有な存在)である。
(例：長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産)
- (4) 歴史上の重要な段階を物語る建築物、その集合体、科学技術の集合体、あるいは景観を代表する顕著な見本である。
(例：法隆寺地域の仏教建造物)
- (5) 伝統的居住形態もしくは陸上・海上の土地利用形態を代表する顕著な見本である。または、人類と環境とのふれあいを代表する顕著な見本である。
(例：白川郷・五箇山の合掌造り集落)
- (6) 顕著な普遍的価値を有する出来事(行事)、生きた伝統、思想、信仰、芸術的作品、あるいは文学的作品と直接または実質的関連がある。
(例：富士山—信仰の対象と芸術の源泉)



(3) 大浦天主堂 (長崎県)
潜伏キリシタンが密かに信仰を続けるなかで育んだ世界に類を見ない独特の文化的伝統



(5) 五箇山の合掌造り家屋 (富山県)
一部地域にしか存在しない特異な住居形式



(6) 『富嶽三十六景 神奈川沖浪裏』 葛飾北斎作
富士山が欧州の芸術分野に大きな影響を与えた一因となった作品

また、以上の6つの登録基準のなかで「阿蘇」が合致し得るものは、以下の理由で(3)と(5)であると検討されています。

- (3) 「阿蘇」は、活火山を持つカルデラという地形的制約のなかで、稲作と放牧が分かち難く結び付いた日本の集約的な農業(稲作・採草)の伝統が、カルデラという特異な地形に展開した特徴的な文化的景観であり、**現在もなおその伝統と歴史を伝承している**希有な存在である。



あか牛の放牧風景
(大字中松)

- (5) 「阿蘇」は、活火山を持つカルデラの**土地利用を極限まで進める**というカルデラにおける集約的な農業、湧水・伏流水を利用してきた水の利用、草の道を利用した採草・野焼きの草地管理、火山信仰および開拓に関わる固有の伝承・祭事との融合のプロセスを表している。それは阿蘇火山と人間との相互作用(共生)の歴史が明瞭に刻まれた文化的景観である。



阿蘇の農耕祭事
(阿蘇市)
提供元：阿蘇世界文化遺産推進室

世界文化遺産と阿蘇について聞いてみた

世界文化遺産を目指す阿蘇の現在の状況などについて、熊本県文化企画・世界遺産推進課の担当者に多くのことを教えていただきました。下記のとおりQ&A形式にて紹介します。

Q1 「阿蘇」が世界文化遺産を目指すことができる要因(強み)とは

阿蘇の世界遺産としての価値(顕著な普遍的価値)は、「世界最大級かつ形状の明瞭なカルデラ火山を人間が極限まで利用したことにより形成された壮大な文化的景観」(この文言については、学術委員会で検討を続けており、今後変更される可能性があります)であるとしています。これは、カルデラ地形の土地利用および火山信仰の両面から比類のない文化的景観であり、これまでの世界遺産にはない唯一無二のものとなります。

Q2 「阿蘇」が世界文化遺産に登録されるための課題は

【阿蘇の世界的な価値の証明】

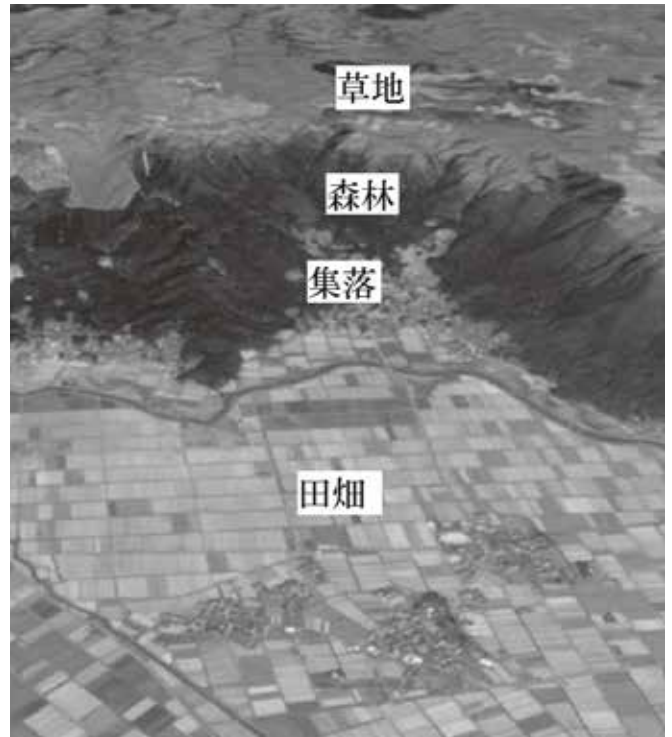
阿蘇の価値を国内的な視点にとどまらず、世界でも唯一無二の価値があることを学術的に証明できることが求められています。これに対して阿蘇世界文化遺産登録推進協議会では、今年度、海外の専門家をオンラインで招聘して国際専門家ワーキンググループを開催する予定です。世界中の世界遺産を知り尽くした海外の専門家から見た阿蘇の価値について検討をおこなっていきます。

【資産の保存】

世界遺産に登録されたら、世界遺産の範囲や周辺の問題を管理していくことが求められます。特に阿蘇では、カルデラ地形と対応するように、**草地(高地)ー森林ー集落ー田畑(低地)**からなる**垂直方向の土地利用方法**がカルデラの全域に展開することが価値とされているため、草地について文化財保護法の「重要文化的景観」の選定を受け、市町村で文化的景観保存計画を策定するなど、資産の保存をおこなってきました。

地元でも、牧野組合や野焼き支援ボランティア、研究者、行政などが協働して草地の維持・再生を進めており、人々の生業による土地の利用が今後も続けられていくことが資産の保存の重要なポイントとなります。

さらに、既登録の世界遺産では、ユネスコから景観の保存を厳しく求められていることから、令和2年1月に知事と阿蘇郡市全市町村長が「『阿蘇』の景観を守る宣言」をおこないました。人々を魅了する眺望を著しく傷つける可能性のある大規模太陽光発電施設などの開発行為や施設整備などについては、市町村が策定している景観条例・景観計画の開発行為や施設整備などの届出に係る事前調整を積極的におこない、可能な限り景観に配慮するよう調整していくことが課題です。



垂直方向の土地利用イメージ図
写真出典：「阿蘇の文化的景観」保存調査報告書

地形に応じた垂直的土地利用

草地

農業に利用する牛馬の餌や草肥の原材料を得る場所
※水田には適さず、森林にしても薪炭の運搬には遠い

森林

薪炭や建材を得るための場所
※斜面地のため草地・水田には適さない

集落

湧水があり集落形成に理想的
※完全な平地ではないため田畑には多少不向き

田畑

豊富な湧水・伏流水が存在し田畑には理想的
※他の土地利用にはもったいない場所

「阿蘇」は古来からカルデラ火山の地形的特性に応じた適材適所の土地利用を伝統的におこなってきました

Q3 世界文化遺産に 登録されることの意義とは？

まず、世界遺産の目的は、遺産を保護し、将来世代へ確実に継承していくことです。

それから、世界遺産という世界的な観点からの顕著な普遍的価値があるものに登録されることは地域の人々にとっての誇りとなり、世界遺産を活用した地域活性化も期待でき、地域の魅力増進にもつながります。

「阿蘇」の登録を推進することにより、まず、先祖代々の生業により田畑や草原、森林を保全し続けてきた阿蘇の人々が世界的に評価され、地域住民の誇りにつながると考えられます。災害が発生した場合などには、復旧・復興の拠り所として文化遺産が心の支えや支援の名目になることも考えられます（近年では、沖縄県の文化遺産である「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の構成資産の一つの首里城が2019年の火災被害を受けた際に、世界遺産という知名度が助けて世界中で大きく報道され、多額の支援金が集まりました）。



農家の皆さんの
日々の営みも
世界文化遺産登録へ
大きく貢献しています

Q4 世界文化遺産に 登録されることで得られる効果は？

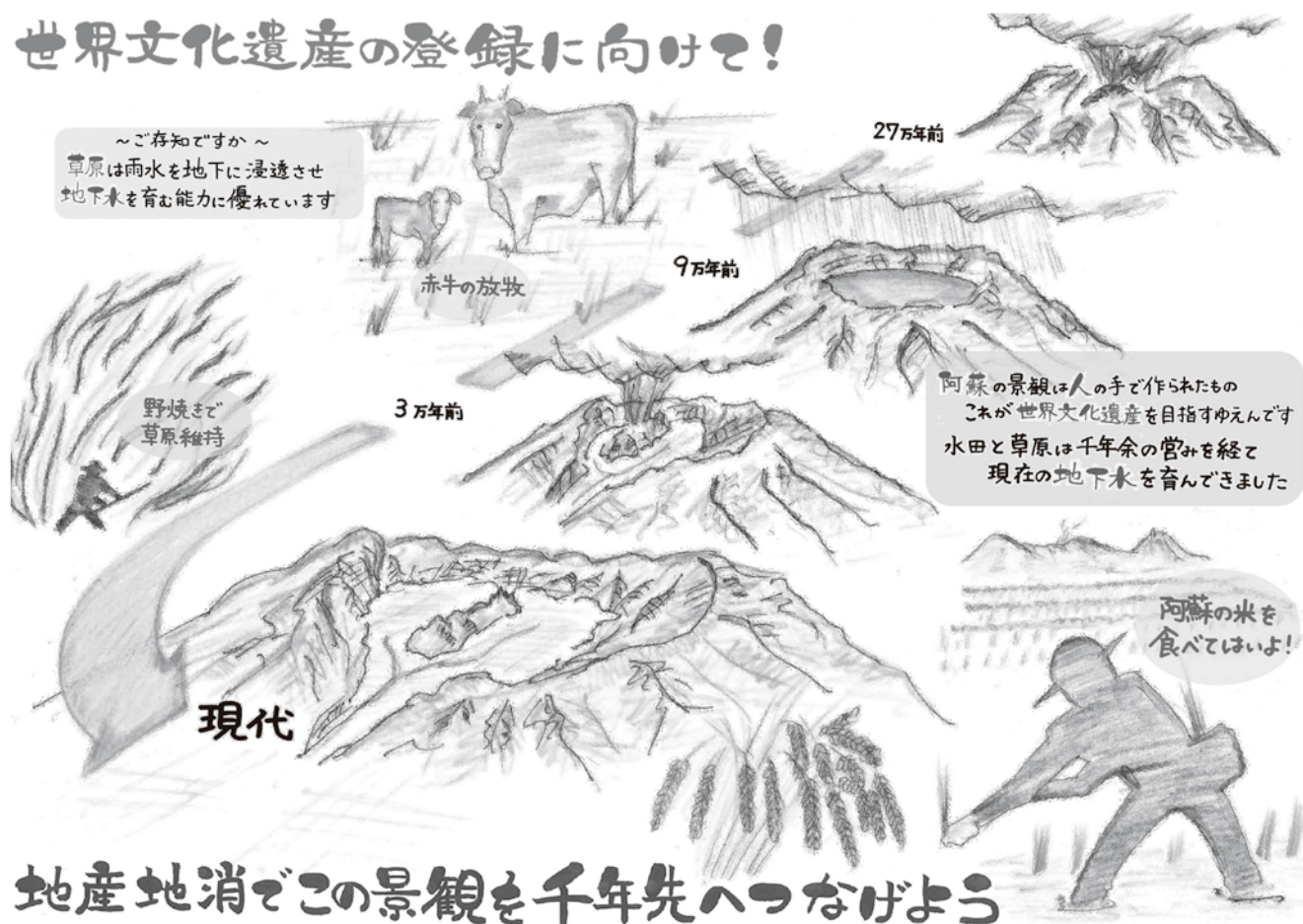
地域の魅力増進や世界遺産登録による知名度向上の結果、交流人口の増加も見込まれます。平成27年に本県初の世界文化遺産登録が実現した「万田坑」では、登録直後に前年度比5倍の観光客が訪れました。また、平成30年に世界文化遺産に登録された「天草の崎津集落」においても、登録以降は前年度比2倍以上の観光客が訪れています。来訪者の増加は新たな雇用の創出を生み、地域が抱える諸課題の解決にもつながると考えます。世界遺産の持続可能な保存・活用が、ひいては、地域社会の持続性に寄与することが期待されます。

Q5 「阿蘇」が世界文化遺産に登録される ために一人ひとり（住民）が 出来ることはあるか？ または、すべきことは？

- 阿蘇について学び、学んだ内容を家族や友人に伝える
- あか牛などの阿蘇の農産品を食べて、農業を応援する
- 野焼き支援ボランティアに参加する
- 農業に携わる（営農を継続する）

簡単なことでも、自分のできることを実践し、多くの人々と共有し正しく伝え続けていくことが阿蘇の世界文化遺産登録に向けての大きな一歩となります。

世界文化遺産の登録に向けて！



地産地消でこの景観を千年先へつなげよう